

だんだん倶楽部会報

雲南市在住のミュージシャン・白築 純さん



純さんは東京で10代からジャズヴォーカリスト、スタジオヴォーカリストとして活躍されてきました。中村力哉さん等音楽界の大御所と呼ばれる方達とお仕事を共にされたり、歌だけではなく作詞・作曲も手掛けられ映画音楽等にも関わっていらしゃいます。

8年前のある日、ふと目にした「緑のふるさと協力隊」の記事に惹かれ1年間だけ島根に住む決心をされました。それは音楽からも離れ自己研鑽する為だったそうです。都会で生まれ育った純さんが1年間、主に農業を通じて地元の方、特にお爺さんやお婆さんと触れ合いながら、特にお爺さんやお婆さんと触れ合いながら「一杯だったそうです」。

その後一旦は東京に帰りますがどうしても掛合町の人が忘れられず何度も行き来されました。翌年、古民家を購入し「自由空間来人家(フリースペースライトハウス)」を立ち上げます。そしてその翌年、活動拠点を東京から掛合町に移され、「雲南市在住のターニングミュージシャン」が誕生しました。

『つばめ来るり』
海の向こうから届いた手紙は
封を開けた途端に淡い潮の香り
晴れた空を行くつばめが今年も
僕の町に緑の風を連れて来たよ

nu...ゆるやかに
hoo...流れてる
ah...時間さえ愛しい場所
寂しさを分け合って ふっと微笑み合って
悲しい思い出が 又ひとつ消えてゆく
よるこびを分け合って そっと声掛け合って
優しい思い出が 又ひとつ増えてゆく

空の彼方から降り出した雨にも
目を閉じて深呼吸 少し夏の気配
長い冬を越えたやわらかい光が
僕の町に黄色い花を咲かせてるよ

nu...せわしなく
hoo...過ぎて行った
ah...時間さえ懐かしい過去
さりげなく気遣って 今日も手を振り合って
小さなこの町を 又ひとつ好きになる...

白築 純さんの情報
ウェブサイト <http://www.crawl-inc.net/cnArt/produce.html>

昨年3月、3年間の集大成「SOLO SOLO」をC o o s o w l a b e i (クウソウレーベル) から発売されました。このアルバムは実際に島根で生活して感じた人との触れ合いや自然、そして2人の子供の母親としての自分をそのまま歌詞にさいいて、広い層の方、特に女性から人気を集めています。

今回この取材を通して沢山のエピソードを聴かせて頂きましたが、「音楽は心の食糧」とおっしゃった言葉が印象的でした。紙面の都合上アルバムからはこの曲の詩を載せましたが全7曲全て心に浸みる内容です。(記者は「ヨロコビノタネ」に心酔しております)是非聴いてみて下さい。

アルバム「SOLO SOLO」
レーベル名 クウソウレーベル
AWL001 価格(税込み) 2000円
お近くのCDショップ、又はAmazon等で入手出来ます。

感動！世界でただ一人の「かなアーティスト」の登場



赤川薫さん

赤川薫さんの絵との出会いはかつてないほどの衝撃。人は今まで自分の概念にないものに出会った時にどう対処してよいか分からなくなる。それを強烈に体感しました。遠目から見ると美しい絵。でも近くに寄ってみるとそれは実に見事に秩序正しく書かれた平仮名の集合体。瞬間的に思い出したのは点描画で有名なジュルジュ・スーラ。

赤川さんにその点を尋ねると、11歳の頃メトロポリタン美術館でスーラの絵を観たことがこのかなアーティストの原点のこと。カナダで生まれアメリカで幼少期を過ごし慶応大学文学部人間科学を卒業後はテレビ広告業界でデザイナーとして活躍されました。その後黒川江偉子先生に師事し、かな書道の師範となり書道芸術院で無鑑査昇進を果たされ、書道世界で数々の賞も受賞されています。

「かな書道」と「スーラ」と、「デザイン」という仕事のキャリアが融合し、世界初のかなアーティストが誕生したのであります。作品の中にはあの文豪芥川龍之介の小説「蜘蛛の糸」があります。小説そのものが丸ごと絵の中に平仮名で書き込まれています。絵を楽しみながら文学作品に触れる芸術は独創性に溢れています。英語とドイツ語が堪能な赤川さんは日独交流150周年プレ・イベントとしてドイツ大使館にて個展と講演を依頼されました。来年5月にはデュッセルドルフでの個展と講演が予定されていますが、赤川さんの作品が何故ドイツ人にそんなに評判がいいのか?とても興味深いです。

ここで少し平仮名の歴史をひも解いてみましょう。1900年までの平仮名は550文字以上あり、異体字も含めると最低800文字ありました。現在の「あ」という平仮名は「安」という漢字を崩したのですが、19世紀までは「亜」「悪」「愛」などを崩して「あ」と読む平仮名も存在し、それらは女文字とも呼ばれ、平安時代の「源氏物語」や「枕草子」など女流文学もこの文字を使って書かれています。男文字とされた漢字は公文書や仏教の経典などに用いられ、武士や僧侶の立身出世のため必要不可欠なものでした。男性と会話することや、自分の姿を見せることが恥ずかしいとされた時代だけに書く文字が美しくければ、姿も美しいと思われ、明治維新後、明治政府は平仮名を簡略し「ひらがな50音」が作成されたのです。「ひらがな50音」に選ばれなかった文字は今では変体仮名と呼ばれ蕎麦屋の看板など特殊なケースで見える以外日常生活で目にすることはありません。でも8000あったかつての平仮名の文面こそ、浮世絵の構図などに通じる世界に類をみない日本独自の美意識が凝縮された芸術なのです。日本の美と伝統文化を新しい手法で世界に伝える赤川さんを通して、日本人自身がかつて持っていた優れた美意識に目覚めることができます。皆さんも是非赤川さんの作品に触れ感動を味わって欲しいと願っています。

赤川薫さんの情報
ホームページ
<http://www.meisterin-akagawa.jp>
アドレス
meisterin.akagawa@googlemail.com

全国1600社へ発信中のソフトメーカー



石本光史さん

（株）システムデザイン・アクティの石本光史社長の取材に出席。余裕を持って出かけたところ、なんと途中で迷子に。10分遅れで到着。頭をかきかき取材が始まりました。

全くの初対面でしたが最近出版された「島根・東京・ひとコミュニティ ショングイド」にお互い登場していることから早速で旧知の友人のように話が弾み3時間も長居してしまいました。本当に楽しいひと時でした。

石本さんは当初スーパーセールスという工務店営業支援ソフトを開発され大ヒット。全国で1600社へ販売された実績をお持ちです。その成功にはただソフトが素晴らしいだけではなく、セミナーを開き使用方法を現場に落とし込んで徹底的に指導された丁寧さが人気ソフトとなった要因だと感じました。

現在は10年間の実績から新たに作り出された「マイホームP」が主力商品となっています。ショールームセミナーを受けましたように住まい作りのアドバイスが受けられます。私も一本このソフトが欲しくなりました。これさえあれば鬼に金棒。そんな強い味方を発見し興奮した次第です。

その他に地域の安全・安心を守るための「ルコシ連絡網」を地域の団体や組織へ無償で提供する地域貢献活動もされています。ルコシ運営ライセンスを持った運営会社が核になって集客を目的とした営業情報の配信と、地域の人が無料で利用できる連絡網、災害時の安否確認機能を持ったシステムを活用できるようにしています。正に三方よしの精神がそこに息づいています。現在、全国12箇所の運営会社で利用されています。これから益々広がることは間違いありません。

石本さんは昭和30年、江津市で誕生。コンピューター専門学校で学んだ後、島根に帰り地元新聞社に入社。10年間電算室やコンピューター事業部でシステム開発・運用に関わった後独立。島根県の小さなソフト会社として初めて兵庫県の銀行や滋賀の大手企業との間に開発専用回線を引き、中央のシステムを地方で開発するという、当時では異色の事業展開で実績を残されました。

その後金融バブル崩壊の煽りを受けて3期連続の赤字経営となり銀行からの支援が打ち切れ苦境に立たされたのです。そこで初めて下請けからの脱却を目的に動き始め、岡山にある親戚の工務店や知人のコンサルからのヒントを得て工務店向け営業支援ソフトの開発にこぎつけられたのです。

会社存亡の危機を乗り越えた経営者だからこそ、机上の空論ではなく地に足の着いた営業支援のアドバイスをを行うことができます。正に全国から商品と共にソフトである石本さんの英知が必要とされると確信しました。本当に楽しい方で終始笑いが絶えない取材となりました。

（株）システムデザイン・アクティさんの情報
電話 0852-31-1670
Fax 0852-31-8399
ホームページ <http://www.acty.ne.jp>

島根に舞い降りた若き起業家の熱い情熱!



野中浩一さん

雲南市にお住いの野中浩一さんは今注目されている起業家です。今年4月から自らが代表となりフリースクール『松江未来塾 駅南校』を立ち上げました。単刀直入に言うと、何らかの理由で高校に行くことが困難になった子どもたちが安心して学び、大学・専門学校、就職という進路を切り開く手助けをしてくれる学校です。

野中さんはお父さんの仕事の都合で転校を繰り返す中、大人になったら「転動しなくてよい仕事につき、子どもを2人以上授かり、自宅でなく里山にある自分の持家で暮らす」との目標を小学生の頃から温め続けていました。今やその願いのほとんどを叶えてしまったのです。自分自身の過去の経験がアンチテーゼとなり現在の野中さんがあると感じました。中京大学文学部心理学科を卒業後は(株)ライフタイム山手学院進学教室で教務主任となり教えるプロとしてのスキルを身に付け、28歳の時夢を叶えるべく行動を開始。東京都板橋区から島根県雲南市へと移住。最初は林業、大工仕事の研修から自分の適性を模索する中、起業家スクールで福島正伸先生の話しに強い感銘を受け起業へと舵を切ったのです。

自分が得意とする「心理学」「教育」「演劇」の要素を取り入れた心理カウンセラー有責任事業組合Conoconを立ち上げました。その手法は非常にユニークでマスコミでも取り上げられ野中さんの存在が知られ始めたのです。その後新設されたあるフリースクールの運営を受託し、県外にある広域制の通信制高校と連携し、不登校やひきこもりなど事情を抱えた高校生の方たちの相談を受けています。ここで学習塾での経験が生きて、教務や生徒支援の面でゼロから独自のシステムを構築。通信制高校の面では広島のリースクールのノウハウを習得し、経理以外の全ての運営をこなしてきています。その後フリースクールとの契約が満了になり現場から離れ

れることになりましたが、その後もフリースクールのスタッフ、生徒、保護者からの相談が日々続いています。そして1年の準備期間と広島医療保健専門学校精神保健福祉科の卒業を経て『松江未来塾 駅南校』が開校しました。以前と同様に通信制高校卒業のために学習面、メンタル面等サポートするだけでなく、これまでの卒業生を中心とした20代前後の生徒たちの社会適応や就職活動を支援するための社会適応コースも設置されています。現在19名の生徒が利用し、高校を卒業するコースでは誰一人として途中挫折せず卒業に向かっていきます。社会適応のコースの中では対人関係を築くためのコミュニケーショントレーニングや、仲間作り、実際に仕事を体験してみ

野中さんとは雲南市へいらして間もない時に出会い、その熱い思いと能力に大いに感化されていました。いつの日か必ず会報で紹介したいと思いつけていました。彼がこの地を選んで若者の未来を共に拓く伴走者として活躍する時が来たと知り心が躍っています。入学説明会が1月22日、3月10日に行われます。ご関心のある方は『松江未来塾 駅南校』(0852-23-9005)にご連絡ください。『笑いあり涙ありの高校生生活を送っていますが、それぞれの子どもたちが持っている可能性がこの場の持つ力によって引き出されるのを目の当たりにして驚いています』と話す野中さんの嬉しそうな顔がとて眩しかったです。



「こんな高校あったらよかった」の声に応えます! 通信制さくら国際高等学校 島根学習相談センター 松江駅前校 入学説明会 11/26 (土) 12/23 (金・祝) 1/22 (日) 3/10 (土) 時間 11:00~13:00, 15:00~17:00, 19:00~ 場所 松江未来塾 駅南校

全国で「通信制高校」を利用している高校生の数 179,844人 島根県では1,857人 学校生活、卒業、進路 充実のサポート体制 入学 体験説明 地域No.1の 通いやすい料金設定

出雲大社神門通り「絆屋」



出雲市で大正15年から続く外食産業総合卸の老舗「二幸」さんが今年9月大社町の神門通りに出されたお店「絆屋」さんを紹介いたします。こちらのお店で提供されているのは、出雲生姜・島根和牛といった地元産の素材を化学調味料や合成保存料を一切使わない拘りの作り方で仕上げた佃煮や、出雲産の椎茸や浜いもを使った鮎を、出雲産の蕎麦を使った皮で包んだ「出雲そばおやき」です。「おやき」と言えば甘い方がかりを想像しがちですがこちらでは信州地方に古くから伝わる「おやき」がヒントになったそうです。そもそも美味しい佃煮が出来た時、ご飯以外で食べる方法は無いか考えた結果今の形態が出来上がったそうです。お店の名前については、食材の生産者と消費者、地元出雲の人と出雲を訪れる人、人と人の絆を表して「絆屋」と言う名前がついたそうです。偶然にも今年の漢字が『絆』でした。お店のパンフレットには

「絆屋」でお客様に伝えたいこと 出雲そばおやきについて、中に含まれている具材について、質問が心の中にたくさんわいてくることがあるかもしれません。そんなときは遠慮なく声をかけてください。おやきを通して出雲の食材を知り、出雲の風土に触れ、心置きなく楽しんでください。そして、出雲を身近に感じる事で出雲を大好きになってください。私たち絆屋がお客様と出雲との縁を結びきっかけとなれば、これほど嬉しいことはありません。

絆屋のおやき 第一に、おいしいこと。第二に、安心・安全であること。第三に、心から感謝の気持ちを包み込んでいること。絆屋でしか食せないこれぞ出雲そばおやき。みなさまのご来店を心よりお待ちしております。と書かれています。この「出雲そばおやき」を実際に頂いてみました。初めて味わうのに何故か懐かしさを感じる味で、素材さと優しさを感じました。取材したのは平日でしたがお店には沢山のお客さんで賑わっていました。神門通りを「おやき」片手に散策する姿もちらほら見えました。オープンしてまだ3ヶ月ですが既に出雲大社の新しい名物になっている様です。皆さんもこの新しい出雲名物を味わってみませんか。つい最近まではお店での販売のみでしたが、冷凍保存が出来るように工夫されましたのでお持ち帰りや地方発送も出来る様になったそうです。詳しくは直接問い合わせして下さい。



【絆屋】さんの情報 出雲市大社町杵築南861-1 0853-25-7337 営業時間10時~16時

編集長と「ララちゃん」の二人言



先日友人の紹介で出雲市扇町商店街・ゆめシヨップにあるキッチン専門店「Aburaya」の吾郷洋子さんとお会いしました。そこで100ボルトの電気を使って卓上で料理ができる調理器で目玉焼き、トースト、ウィンナーなどをいただきました。それがあまりに美味しく、さっそく取材モードとなりました。これは第二次世界大戦時、ドイツの潜水艦Uボート内で使用する調理用の熱盤として開発されました。電波を傍受されないように電磁波を抑え、揺れにも強い構造です。それが30年前に日本に入り家庭用に改良されています。凄いの熱の伝わり方です。厚いジャンボハンバーグに焦がすことなく完全に火を通すことができます。やはり国家の威信をかけて開発されたドイツの軍需技術は凄いの一言です。どこでも卓上に置いてテーブルクッキングを家族で楽しむことができます。新しい形の食卓の登場です。このお店では数百円で体験料理教室が行われています。電話0853-23-2601にどうぞ。さてララちゃんですが一年間お世話になりました。お陰様で本人の知らない間に全国的に有名な飛躍を胸に秘め今日も今日とて睡眠をむさぼっています。長い充電期間はまだまだ続きます。それでは皆さんよいお年をお迎えください。



自分の腕枕で... 幸せいっぱい寝顔! スタートダッシュ! 夢の中でダイビング ちょっとアンデス風に... しぶい 毎月無料でお送りします ご希望の方はご連絡ください 連絡先 〒693-0011 出雲市大津町597 (株)浜村建設 TEL (0853)21-1673 FAX 21-7078 e-mail hama7@giga.ocn.ne.jp だんだん倶楽部 http://www.dandanclub.jp/ 浜村建設 http://www.hamaken-web.jp/